

「都市」で学ぶ。「人」を育てる。「未来」を築く。

—都市大グループ



CITY
UNIV.



東京都市大学

TOKYO CITY UNIVERSITY

世田谷キャンパス [工学部/知識工学部]

横浜キャンパス [環境学部/メディア情報学部]

等々力キャンパス [都市生活学部/人間科学部]

附属中学校・高等学校 / 等々力中学校・高等学校 / 塩尻高等学校 / 附属小学校 / 二子幼稚園

新しい春、夢の実現に向かってはばたけ

都市大グループはあなたの未来を応援します

ご入園、ご入学、おめでとうございます。東京都市大学グループは、東京都市大学・大学院を中核として付属の高等学校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園で形成されています。あらゆる学齢において良質の教育を実践する都市大グループ。その進化を概観してみましょう。

学校間連携を深めながら あらゆる学齢で優れた教育・研究を推進する

工学を中心に、専門力に秀でた未来志向の人材を輩出してきた武蔵工業大学は、創立80年目の2009年4月、優れた女性教育の伝統を持つ東横学園女子短期大学と統合し、「東京都市大学」(都市大)へと改称。同時に付属校である高校から幼稚園についても冠を統一し、東京都市大学グループ(都市大グループ)を形成しました。それから6年、「健全な精神と豊かな教養を培い、未来を見つめた人材を育成する」という都市大グループ共通の教育理念のもと、それぞれの学校が育んできた伝統と、グループ全体のスケールメリットとを融合しながら、都市大グループは、全ての学齢において優れた教育、研究を展開しています。

都市大グループの祖・五島慶太先生の志や理念を継承 世界で活躍する人材の育成を目指す

都市大グループを設置する五島育英会の初代理事長である五島慶太先生は、東京急行電鉄(東急電鉄)をはじめとする公共交通や、不動産、生活サービス、ホテル・リゾートなど幅広い分野で事業を展開する東急グループの創設者です。五島先生は日本を、そして世界を支える人材を育成するには、大学から幼稚園までを包含する総合学園が不可欠であると提唱していました。2009年に実現した都市大グループの総合学園化は、1959年に惜しまれながら世を去った五島先生の志が、半世紀の時を経て結実したものです。

「都市」で学ぶ。「人」を育てる。「未来」を築く。
—都市大グループ

シンボルマーク：
「都市」の「T」を図案化。また、持続可能な明るい未来を見通す「窓」でもあり、そうした社会を実現するための「知恵のフキダシ」の象形でもある。色調(アイデンティティカラー「TCUブルー」)は、知性と持続可能な明るい未来を意味する。

五島先生の考えは、都市大グループの教育理念や教育目標へと着実に受け継がれています。これからも都市大グループは、その志を体現すべく進化、成長し続けます。

五島慶太先生の功績にふれる 『東京都市大学 歴史展示コーナー』

東京都市大学世田谷キャンパスの五島記念館(3号館)1階には、『東京都市大学歴史展示コーナー』があります。ここでは、1929年の都市大創立時から現在に至るまでの発展、進化の過程が迎れるさまざまな展示に加え、五島慶太先生の生涯と、とくにその教育分野における類い稀な功績が紹介されており、五島先生の肉声によるメッセージを聴くこともできます。さらに工学部建築学科・勝又英明教授の研究室が現地測量と調査に基づき制作した五島慶太先生生家の復元模型も展示しており、どなたでもご覧いただけます(大学開校時間内)。



展示コーナーの一角で、長野県小県郡青木村の生家を忠実に再現

事業家としてだけでなく、教育者としても卓越していた五島慶太先生



国際都市東京で存在感を示す有数の私大へ

創立100周年に向けて改革を加速する都市大

1929年の創立以来、80余年にわたって、日本経済の屋台骨を支える人材を輩出してきた東京都市大学は、現在、世田谷、横浜、等々力の3キャンパスに6学部18学科と大学院2研究科12専攻を擁する大学へと発展しています。2015年1月には新たに三木千壽学長を迎え、さらなる進化にチャレンジしています。

創立90周年、100周年に向け 「東京都市大学アクションプラン2030」を推進

東京都市大学の興りである武蔵高等工学校(武蔵工業大学の前身)は、1929年、工学教育の理想を求める学生たちが中心となって創られた大学です。独立自主の思い溢れる学生らが掲げた「公正・自由・自治」という建学の精神は、80年以上の時を経てもなお

力強く継承され、現在に至っています。

この間、総合研究所や図書館といった教育研究設備の充実をはかるとともに、新たな学部学科の開設や、カリキュラムの練磨、国内外の他大学との連携など、ハード・ソフト両面における格段の進歩を果たしました。2009年の「東京都市大学」誕生以降、それら改革のスピードはさらに増し、早稲田大学と共同で「大学院工学研究科共同原子力専攻」を開設したほか、東京大学生産技術研究所や日本科学未来館との連携、タマサート大学(タイ)や、エディスコワン大学(豪)といった海外の有力大学とも協定するなど、進化の勢いは衰えません。

2019年に創立90周年、2029年には記念すべき創立100周年を迎える東京都市大学。これを見据えて、国内はもとより、国際的にもその存在感を増すべく、「アクションプラン2030」を策定。2015年度からは、国際人育成のための「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」をスタートしました。



世田谷キャンパスの新たなシンボルとして2013年12月に完成した「1号館」。施設の1階には全ての学生サポート窓口を配置しています。

大学院・学部

【大学院】 工学研究科/環境情報学研究科 【工学部】 機械工学科/機械システム工学科/原子力安全工学科/医用工学科/電気電子工学科/エネルギー化学科
建築学科/都市工学科 【知識工学部】 情報科学科/情報通信工学科/経営システム工学科/自然科学科 【環境学部】 環境創生学科/環境マネジメント学科
【メディア情報学部】 社会メディア学科/情報システム学科 【都市生活学部】 都市生活学科 【人間科学部】 児童学科

三木 千壽(みき ちとし)新学長が就任

2015年1月1日、10代目の東京都市大学学長に就任した三木千壽学長は、ASEAN各国と日本の工学分野におけるトップレベル大学とが連携するASEAN高等教育ネットワークの日本側代表を長く務めるなど、グローバル人材育成の先導者として知られています。母校東京工業大学で工学部長や副学長を歴任後、2012年に都市大の総合研究所教授として着任。その後、国際担当の副学長として、TAPのプログラム作りをリードするなど、積極的に大学の国際化を牽引してきました。「都市大を世界標準の大学へと進化させ、日本有数の私大としての地位を確固なものにします。都市大の卒業生で良かったと思われる大学にしてみせます」と、学長としての決意を新たにしています。



自他共に認める「都市大の就職力」は 力強い卒業生ときめ細かいキャリアサポートの賜物

企業の人事担当者が選ぶ大学ランキング(日経HR調査)でも好評価を得た「都市大の就職力」。理由の第一は、専門力に優れた多くの卒業生が国内外の社会を支える企業や自治体の第一線で活躍し、その力量を広く認められているため。都市大では、卒業生らの協力も得て、年間約600社の優良企業が集まる学内企業説明会を開催。さらに、東急グループの一員であるメリットを生かしたグループ企業でのインターンシップや、グローバルな力を養う海外インターンシップなど、独自性の高いキャリアサポートプログラムを提供。各キャンパスでは、就職支援の中心を担うキャリア支援センターで学部学科の特色に合わせたサポートを実施し、将来の国際社会を担う有為な人材を、社会に送り出しています。



創立90周年、100周年への持続的発展に向けて

建学の精神と教育理念の下、4つのプロジェクトを展開! 「東京都市大学アクションプラン2030」

世界がグローバル化し、多様な価値観を持つ人々が増え、急速な情報化によりライフスタイルも一変。激変する時代と社会を背景に、東京都市大学はさらなる変革をめざし、2013年度に『アクションプラン2030』を掲げました。その一環として、いよいよ『東京都市大学オーストラリアプログラム』(TAP)も始動。ここではアクションプランの概要と、具体的施策の一つであるTAPの内容をご紹介します。

「東京都市大学アクションプラン2030」

ビジョン達成に向けての4つのプロジェクト

Project 1 教育の質保証

- 都市大教育理念に則った教育プログラムの確立
- 教育の質を保証するためのマネジメントシステムの構築
- グローバル化に対応した人材の育成
- 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成

Project 2 キャンパス教育環境向上

- 施設の長寿命化および更新(アメニティ空間の改善)
- グローバル化に対応する施設
- 良質な学修環境

Project 3 ブランド力向上

- 広報力の強化
- 産学協同体制の構築
- 東京オリンピック開催に合わせた都市大ブランド力の向上戦略
- 国際化の推進
- 創立記念事業

Project 4 大学運営向上

- 中長期計画に基づくPDCAサイクルの確立と評価
- 大学のガバナンス強化
- 時代の変化に対応した大学運営組織
- 収支に立脚した財務基盤の確立



2013年

2014年
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、同組織委員会と連携協定を締結。

2020年
創立90周年(2019年)

創立100周年(2029年)

教育理念
ボーダーを超えて、学生と教職員が共に考え、学び、行動することで社会に貢献できる人材を育てる。

建学の精神 —公正・自由・自治—
「学びたい」という一心のもとに学生自らが支援者、教えてくれる人と校地・校舎を探索したことによって創立されたという経緯を尊び、「創立時における学生の熱情」を大切にす私学として、グローバルな時代に有為な人材育成に努めることを社会に誓う夢と希望のシンボルである。

明確なプランに基づきビジョン達成のために4プロジェクトを推進

『東京都市大学アクションプラン2030』(以下、アクションプラン)では、「教育の質保証」、「キャンパス教育環境向上」、「ブランド力向上」、「大学運営向上」という4つのプロジェクトを策定し、それぞれ上図に示したような個別の課題をクリアしながら、将来的には「国際都市東京で存在感を示す有数の私大」というビジョンの実現を目指します。

このアクションプランで特徴的なのは、緻密な事業計画を設定し、Plan(計画)~Do(実行)~Check(評価)~Action(改善)というPDCAサイクルを循環させながらプロジェクトを効率的かつ迅速に遂行していく点。また、各施策の進捗度合いや成果、コスト、必要性などを、単年度、複数年度で評価しながら、優先順位を入れ替えたり、新たに必要となった事業を導入したり、不要になっ

た施策を終了するなど、柔軟かつスピーディーに実施しています。

2014年度は、4つのプロジェクトによる16施策において、69事業が実行され順次成果を挙げています。また、2015年度からは教育の質を高めるための大きな柱となる「グローバル人材の育成」を目的とした『東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)』がスタート。注目を集めています。

全教職員が一丸となって取り組むアクションプラン。そこには「建学の精神」と「教育理念」が通底しています。「学生と教職員が共に考え、学び、行動する」と教育理念に謳われているように、本学を構成する学生や教職員をはじめ関係者全員が情熱をもって協力し合い、本学のさらなる発展に向けて挑戦を続けてまいります。

今年度入学生よりいよいよスタート!



東京都市大学 オーストラリア プログラム TAP

TOKYO CITY UNIVERSITY AUSTRALIA PROGRAM



「実践的な専門力を有した国際人」を育成する

『東京都市大学オーストラリアプログラム』(TAP)は、都市大が推進する国際人育成プランの一つとして、2015年度の入学生から始まる留学プログラムです。このプログラムでは、1年次に語学力強化と異文化理解のための準備教育を実施し、2年次には西オーストラリア州の国際都市パースにあるエディスコワン大学(ECU)に約5ヶ月間留学します。

副学長時代から計画の総責任者を務める三木学長は、学報誌のインタビューで、このプログラムの目的は「今後、一層グローバル化が進む中で、あらゆる国の人たちと英語で議論し合うことができるコミュニケーション能力、異文化を理解できる国際性、変化し続ける時代に対応できる柔軟性を育むこと」にあると説明しています。

オーストラリアは日本との時差がわずか1時間。温暖な気候で生活しやすい環境です。とくに留学先の西オーストラリア州パースは、海外出身者が人口の約3割と多様性に富んだところ。ビル群が織りなす景観と、美しいビーチなどの豊かな自然が調和するこの街は、『英国・エコノミスト誌』の住みやすい街ランキングで長くトップテン入りを続けています。留学中は、ECUの寮での滞在となるため、自然に異文化とふれ合い、英語力を増強できます。

年間200名の参加枠のうち、約100名に参加費用の全額免除や奨学金給付の経済的支援制度があります。長期留学をするという声も聞かれますが、TAPではECUでの5ヶ月間も在学期間として単位修得が認められるので、最低修業年限の4年間で卒業することが可能です。

本学ではこれまで欧米、オーストラリア、アジア各国の多くの大学と協定を結びとともに学部ごとに各方面への海外研修を実施するなど、国際化の進展に力を入れてきました。また、近年は海外インターンシップに送り出すなど、在学生在が世界を舞台に活躍できるよう、さまざまな取り組みを行っています。

TAPの特徴

- 1年次は準備教育
国内でネイティブスピーカーによる講座を受講し、英語力を強化。留学準備研修で、異文化理解とコミュニケーション力を高めます。
- 2年次の留学中に英語と教養を学ぶ
英語に加え教養を学びます。現地で学んだ科目は単位修得可能です。
- 異文化交流のチャンス
ECUの寮に滞在するので異文化交流のチャンスがあります。
- 4年間で卒業可能
留学期間は在学期間に含まれるので、4年間(最低修業年限)で卒業可能です。



【後援】
西オーストラリア州政府



【協力】
エディスコワン大学
CRICOS IPC 00279B

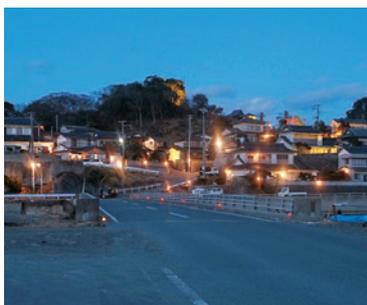
詳細はホームページより ▶▶ <http://www.tcu.ac.jp/tap/>

幅広い学術分野で卓越した成果をあげ、社会に貢献する都市大の研究活動

都市大では、エンジンやナノテクノロジー、新エネルギーなどの工学から、情報、環境、まちづくり、幼児教育まで、幅広い分野で数多くの優れた研究成果を挙げており、多くのメディアでも盛んに採りあげられています。ここではその中から、建築学科の小林先生と情報システム学科の大谷先生の研究内容をご紹介します。

光の持つ無限の可能性を模索する

工学部建築学科の小林茂雄教授の主な研究テーマは、光環境と人間行動の関係性について。環境心理学に基づき、光や色彩を中心とした環境要素が人間に与える影響について探求し続けています。小林先生の研究室では、世界遺産である富山県五箇山相倉の合掌造り集落をライトアップしたり、築地本願寺をキャンドルで彩るなど、他にはないユニークな活動を通して、光や色彩が人とどう関わっているのか考察しています。最近では、2015年3月1日から31日まで、東日本大震災の被災地、福島県いわき市久之浜地区周辺で、街灯設置による照明社会実験を実施。小林先生は、これまでも釜石市内や陸前高田市で同様の社会実験を行い、



久之浜地区の街灯設置実験で光がもたらす様々な効果を検証

常設照明の設置を提案・協議してきました。「暗闇となった被災地で灯る光は安心感を与え、人と人を結びつける働きを通常以上にします。そうした力を最大限引き出すような光の強さや空間的な配置を考えています」と語る小林先生。人間にとってより良い空間と環境を求めて、その研究活動は今日も続いています。



Profile
小林 茂雄(工学部 建築学科教授)
1991年東京工業大学工学部建築学科卒業。93年同大学院修士課程修了。同年同大学院助手となり、98年には博士号(工学)を取得(東京工業大学)。2000年本学講師に就任し、現在建築学科教授を務める。10年に日本建築学会賞(論文)、11年本学優秀研究者賞を受賞。

個々人の感性に応じた楽曲の自動作成に挑戦

メディア情報学部情報システム学科の大谷紀子教授は、多角的な視点から人工知能の研究に取り組んでいます。「生物は最適な遺伝子を選択しながら進化してきました。そこで、進化過程を模倣し、無数の解の候補から一番優れた解を見出す遺伝的アルゴリズムと呼ばれるコンピューター手法が考えられました。私はこれを用いてさまざまな研究を行っています」と大谷先生。これまでも、解の発見に数百年はかかると言われてきた難題に、遺伝的アルゴリズムを応用してきました。現在力を入れているのは自動作曲だそうです。「私たち一人ひとりが、聴いて楽しいとか悲しいとか、好き、嫌いといった感情を抱く音楽、つまり個々人の感性に訴える楽曲を自動的に創り出すソフトウェアを学生とともに開発しています」。他にも、図書館で使用するシステムや研究室配属システムなど、学内の様々なシステム開発に学生と一緒に取り組む大谷先生。「学生と共に」というぶれないポリシーが新しいシステムの創造につながっています。



「学生と共に」がモットーの大谷研究室



Profile
大谷 紀子
(メディア情報学部 情報システム学科教授)
1993年東京工業大学工学部情報工学科卒業。95年同大学院理工学研究科情報工学専攻修士課程修了。キヤノン(株)などを経て、02年武蔵工業大学環境情報学部情報メディア学科(現東京都市大学メディア情報学部情報システム学科)講師。06年東京大学にて博士(情報理工学)の学位を取得。14年教授に就任。

2014年度報道機関で注目された都市大の研究活動(抜粋)

- 「都筑区の課題 卒業研究に」 読売新聞(15年3月6日)
- 「地域の学生パワー」 読売新聞(14年11月13日)
- 「会話メンバーを判定 音声データを解析」 日経産業新聞(14年9月11日)
- 「知の明日を築く 都市基盤施設の再生工学研究センター」 日本経済新聞(14年9月4日)
- 「プラズマで血管拡張 心筋梗塞の症状緩和」 日経産業新聞(14年7月9日)
- 「CO2削減 学園祭で実践」 朝日新聞(14年6月19日)

トピックス

朝活応援! 都市大の100円朝食

一日の活力は朝ごはんから。世田谷、横浜、等々力の3キャンパスで、「朝活応援!」をキャッチフレーズに、昨年7月14日より在学生を対象とした「100円朝食」を実施しました。この企画は、朝から集中して授業や試験に臨んでもらうべく、栄養バランスの良い朝食をワンコインで提供するというもの。脳の活性化や健康サポートを目的に、本学と後援会、校友会の補助により実現しました。



このボリュームと内容で何と100円! 洋食と和食の日替わりです。

子育て支援センター「ぴっぴ」が開設10周年!

等々力キャンパスにある子育て支援センター「ぴっぴ」が昨年6月1日に開設10周年を迎えました。その前日には利用者23万人を突破、記念日に華を添えています。「ぴっぴ」は子供たちの遊び場として、保護者のコミュニケーションの場として地域の皆様に親しまれています。児童学科の学生は2年次からこの場所で、子育て支援体験を行っています。



親子が自由に遊び道具や絵本を利用しています。

それぞれの伝統とグループのメリットを融合しながら 世界を視野に進化し続ける都市大付属各校

高等学校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園の都市大付属各校も、それぞれの学校が独自に培ってきた伝統を生かしながら、グループとしてのメリットを存分に生かして進化し続けています。ここでは、それぞれの伝統を生かしながら、グループとともに成長し続ける各校の動向をご紹介します。

東京都市大学 付属中学校・高等学校

都内私立男子中学で初めて「グローバル入試」を導入

完全中高一貫制のもと、豊富な知識と教養、国際性とを備える「人間力」に優れた人材を育成し続ける付属中高。昨年度導入した「帰国生入試」に続き、2015年度入試では英語を試験科目とした「グローバル入試」を新設。国際社会において、地球的規模でものごとを考え、国際的に行動できるリーダーの育成を目指します。中学入試においては5年連続で志願者が都内最高となり、「明るく元気な進学校」として勉強にもクラブ活動にも全力で取り組む生徒を育てます。



ニュージーランドで異文化体験からその世界観を経験

東京都市大学 等々力中学校・高等学校

グローバルリーダーの育成を目指す

「ノブレス・オブリージュ」の教育理念のもと、グローバルリーダーの育成を目指す都市大等々力中高。英国の名門ラグビースクールや豪州アカデミーなどとの提携で国際力を醸成しつつ、実験重視の理数教育プログラム(SST)で自ら思考し探求する姿勢を養います。2014年度は難関国公立大に160名超が合格。2015年度は最難関国公立を目指すS特選コースを新設し、GL・留学プログラム(1年留学)も導入しました。課外活動も世界的に活躍中です。



世界選手権(米国・フロリダ)で堂々たる演技を披露した舞チア部

東京都市大学 塩尻高等学校

新教育理念のもと文武両道に磨きをかける

2014年4月から「Creation & Dignity」を新たな教育理念に、ドラスティックな教育改革をスタートさせた都市大塩尻では、校舎と体育館を新築し、教育環境の施設充実を図っています。全国大会の常連として知られるサッカー部、女子バレーボール部をはじめ、甲子園出場経験もある野球部など、活発な運動部に加え、文化部にも力を入れています。すでに信州大学などの国公立大学や難関私立大学に卒業生を送り出すなど、文武両道に一層磨きがかかります。



春高バレーに4年連続出場的女子バレーボール部

グループ間連携

東京都市大学 × 東京都市大学二子幼稚園

人間科学部の学生が幼稚園のサポーターに

幼大連携に積極的に取り組む東京都市大学二子幼稚園。これまで、運動会や芋掘り、大根掘りなど数々の行事に、保育士、幼稚園教諭を目指す都市大人間科学部児童学科の学生がサポーターとして参加しています。学生にとっては貴重な幼稚園実習の機会となり、保護者にとっても子供たちを真剣に見守る学生たちの存在は心強いものに映っているようです。今後も二子幼稚園と人間科学部のコラボレーションは強化されることでしょう。



昨年10月、都内の農園で行われた「サツマイモ掘り」の様子。ブルーのシャツが都市大生です。

東京都市大学 × 東京都市大学塩尻高等学校

都市大教授を講師に塩尻高が市民公開講座を開催

東京都市大学塩尻高等学校では、昨年9月14日、10月4日の2回にわたって、都市大の教授による「市民公開講座」を開催しました。第1回は、TBS「サンデーモーニング」などのコメンテーターとしても知られる環境学部の涌井史郎教授が『木育の時代』をテーマに講演。第2回目は、JAXA宇宙科学研究所で宇宙太陽光発電などに携わってきた佐々木進教授が「宇宙開発にかけたる夢」と題して講演しました。近隣の人たちも多数訪れ、都市大の研究成果に耳を傾けました。



都市大の最先端の研究等を生徒や塩尻市民に触れていただきました。

東京都市大学 付属小学校

「楽しい学校生活を送りながら、中学受験」へ導く

中学受験への指導力でメディアからも注目を集めている都市大付属小。2015年3月の卒業生は、麻布、開成、筑波や早慶の付属校などに加え、都市大付属や都市大等々力など数多くの難関有名校に進学しています。知性を高めるカリキュラムを実践しているだけでなく、日本を代表するシェフ三國清三氏が指導する食育プログラムや、一流演奏者も出演する舞台で行う音楽発表会、盛大な運動会など心を育む学習があるのも本校の魅力。目指しているのは「日本一楽しく中学受験できる学校」です。



大きな舞台で開催される音楽発表会に向けての練習にも力が入ります

東京都市大学 二子幼稚園

恵まれた環境を生かし多文化に触れる教育を推進

日常のおそびや体験を通して、たくましい体、豊かな心を育てる保育を実践している二子幼稚園。二子玉川駅から徒歩約5分の好立地に加え、多摩川河川敷にほど近い自然に恵まれた環境にあります。広い園庭やオーディオビジュアルなど充実した施設設備を活用しながら、子供たちの健やかな成長を後押ししています。食育も重視するほか、2013年からは「多文化に触れる教育」を実践。世界各国の文化に触れながら、日本の文化や言葉との違いに気づくことを目標に、絵本や歌、地図や地球儀を使って、興味や関心を高めています。



植物に触れ合い育てるということを通して生命の大切さを育みます

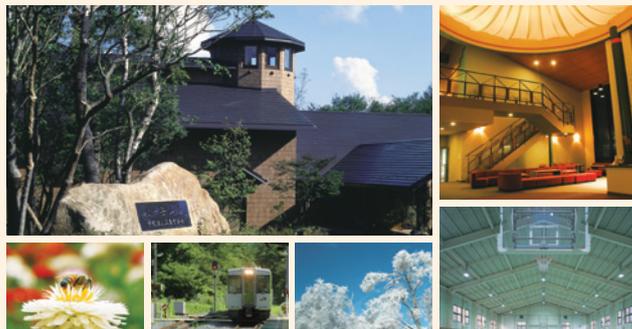
東京都市大学 総合グラウンド

都市大グループの総合運動施設



都市大グループの幼稚園から大学までの園児、児童、生徒、学生が、健康と体力の増進と様々な教育活動を行う場として、2010年に開設しました。二子玉川駅から徒歩で5分ほどの好ロケーションに、野球場や常設5面のテニスコート、サッカーやラグビーなど様々な競技に利用できる多目的コート、トレーニングコーナーを備えるクラブハウスなどを備えています。

Information



自然豊かなリゾート施設「八ヶ岳山荘」(山梨県清里)

八ヶ岳の主峰、赤岳の山麓に広がる清里高原に、都市大グループの厚生施設「八ヶ岳山荘」があります。14畳(大人6~7名用)11室と、8畳(大人2~3名用)1室の計12の和室の他、広々とした大浴場や、研修・ゼミナールなどに使える多目的ルーム、バスケットボールなど屋内競技が楽しめる体育館を設け、クラブ活動やゼミ合宿、教職員との交流やレクリエーションに、四季を通じて活用されています。在校生やそのご家族はもちろん、卒業生も利用できる施設です。



申し込み方法など詳しくは大学各キャンパス、各学校・園の事務室にお問い合わせください。

● <http://www.goto-ikuei.ac.jp/yatsu>

奨学金制度

都市大グループの児童、生徒、学生、保護者を応援する「五島育英基金奨学金」

五島育英基金は、学校法人五島育英会の有為な人材の育成および教育の振興を目的として、五島慶太初代理事長を中心にその主旨に賛同して寄せられた寄付金等により、1957年に発足いたしました。以降、当基金では奨学事業のほか、学生・生徒への顕彰や部活動の奨励等を行っています。



本誌に関するお問い合わせ

学校法人 五島育英会

法人本部 広報グループ 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-10-7 五島育英会ビル8F Tel:03-3464-6916(ダイヤルイン)



都市大グループ

検索